

令和7年度 特色ある教育・経営の取り組みを行う私立学校の事例集

知識やスキルにとどまらない、

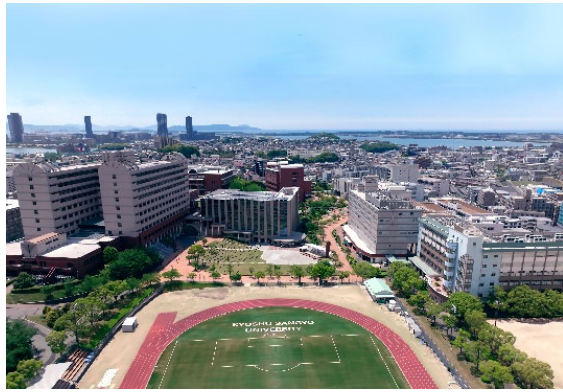
真のグローバルリーダーを育成

グローバル・リーダーシップ・プログラム

学校法人 中村産業学園

九州産業大学

九州産業大学



九州産業大学 キャンパス

博多駅から電車で約15分、九産大前駅から徒歩1分の場所に、九州産業大学の広大なキャンパスがあります。同大学は、昭和35年に商学部商学科の単科大学として開学し、令和7年に創立65周年を迎え現在は9学部、5研究科と短期大学部を有する総合大学となっています。「文系」、「理工系」、「芸術系」の多様な専門分野を学ぶ学生が1つのキャンパスに集い、学べる環境を有しています。

同大学の建学の理想「産学一如」とは、

「産業と大学は車の両輪のように一体となつて、時々の社会のニーズを満たすべきである」という意味です。同大学は開学以来この理想に沿い、時々の産業界の期待に応え、実践力のある人材を養成してきました。令和3年から遂行している中期計画においては、最終目標を「文理芸術融合のグローバル総合大学へ」とし、グローバル人材の育成にも一層力を入れています。この中期計画に先駆け、令和2年から始まった特別教育プログラムが、「グローバル・リーダーシップ・プログラム（以下、GLP）」です。

#### ◆プログラムの目的と概要

GLPは、実践的な英語によるコミュニケーション能力を備え、社会のグローバル化に対応できる幅広い視野を持ち、国際社会の最前線で活躍できる人材の育成を目的とした全学部横断型プログラムです。

きっかけは前理事長の発案です。同大学は中期計画達成に向けて、学生の海外留学経験を増やすなどグローバル人材育成の重要性を強く認識していました。そういった中で、九州唯一の国連機関である国際連合人間居住計画福岡

本部（以下、国連ハビタット福岡本部）等との連携が実現し、グローバル人材を育成するGLPが生まれたのです。

GLPに参加できるのは、語学力や意欲を総合的に勘案して選抜された一学年約20名の学生です。全学部横断型のプログラムのため、外国語を学ぶ国際文化学部のみならず経済学部や理工学部の他すべての学部から学生が参加しています。



GLPの授業風景

プログラム期間は、2年次後期から4年次前期までの2年間で、全て英語で行われます。

2年次後期は「基礎」の段階として、国際社会の現状に精通した講師による授業を通し国際教養を身に付け、グローバル課題について探求します。

3年次は「実践」の段階として、海外

での語学研修や海外展開企業での実習に参加し、国際社会で協働するための行動力を身に付けます。

4年次前期は「まとめ」の段階で、集大成として「GLPを通じた自身の成長とグローバル人材としての展望」を英語で発表します。

必修・選択科目と合わせて8つのGLP科目があり、そのうち12単位以上を修得した受講生に、大学公式の認定証が交付され修了となります。

また、渡航費用なども含めた海外実習費用の一部は、全学の代表として「ハイレベルなグローバル人材」を目指す受講生たちへの期待を込めて、大学が支援しています。

#### ◆国連ハビタット福岡本部との連携

GLPの特長の一つが、国連ハビタット福岡本部から派遣される専門官による講義です。これは同大学と国連ハビタット福岡本部との包括的連携協定に基づいて実施されます。国連ハビタットは「都市化と居住の問題」に取り組む国連機関です。その福岡本部は、アジア太平洋地域における開発途上国の居住問題に取り組むとともに「住民全体のまちづくり」を推進しています。国連ハビタットの活動を広く伝えたい福岡本部と、国際的な知見を教育に生かしたい大学との思いが合致し、連携が実現しました。GLPの受講生は、国連機関で活躍する講師から、経験を交えた

話を直接聞くことによって、グローバルな課題を「自分ごと」として理解する力を養います。実際に、受講生からは「自身の専攻とグローバル課題とのつながりを発見し、視野が広がった」という声も上がっています。

◆スタンフォード大学SPICEとの連携  
SPICEとは、アメリカのスタンフォード大学が世界の高校生や大学生を対象に展開する、多文化理解教育プログラムです。令和5年よりこれを同大学向けにアレンジし、オリジナルプログラム「GLPⅢA(Stanford eKYusantU)」としてGLP3年次の「実践」科目の一つに組み込みました。

SPICEのディレクターがGLPを含む大学のグローバル教育に共感したことが連携の発端です。  
この科目はSPICEの担当講師や地元ゆかりのあるゲストスピーカーによる多様性、持続可能性、起業家精神の3つをテーマにしたオンライン講義と、ディベート、プレゼンテーション等で構成されています。すべてを英語で実施することで、受講生の知見拡充に加え、実践力の鍛錬を企図していることが分かります。

◆成長を実感できるカリキュラム  
今では同大学の代表的な取り組みとなったGLPですが、当初から順調だ

ったわけではありません。始まって間もない頃は、主目的を語学力などの「社会で生きるツールの修得」とする受講者と、「唯一無二のグローバルリーダーの育成」とする大学との、目標認識の相違が生じていました。そこで大学は、カリキュラムと修得能力を可視化した学習フローを示し、受講者が「成長の未来像」を描けるようにすることで、このギャップの解消を図りました。現在はプログラム開始前の履修推奨科目も含め、1年次から4年次までの学修フローが明確に示されています。各科目の開講時期が「基礎」から「まとめ」まで順序立てられているため、受講生は自身の成長の度合いを確認しながら、グローバルリーダーを目指すことができます。



学修フロー

さらに、GLPでは受講生1名に対して1名の教員がメンターとして月1回程度の面談を行い、成長のプロセスを確認しています。面談の内容は、GL

Pの活動内容のみならず就職活動やアルバイトといった学生生活全般に及び、教員が親身になって、目標の達成を後押ししています。

◆就職協働で内容を強化

GLPのカリキュラムは、教職員が一体となって構築しています。教育内容は、各科目の担当教員が作成する原案に、部門の職員による効果的な実践可能性の検証や、教務部職員による成績や単位に関する助言を加味し構築されます。

また、実務家講師の提供元や実習先として欠かせない「協力企業や団体」の確保のためには、GLP担当教員自らが精力的に国内外へ足を運び教育の意義を直接伝える手法を継続しています。教員による地道な渉外活動は、GLPの「グローバル人材育成と地域社会・地元産業界への貢献」という目的に賛同した多様な分野の企業・団体によるプログラムへの協力や継続に結び付いており、その分野の広さや数は、GLPの社会的評価の高さを示していると考えます。

◆修了生たちの活躍

GLPでは、受講生に対して必ずしも海外で働くことを勧めているわけはありません。日本国内にいながらも、グローバル化の進む社会において国際的な視野を持って活躍できる人材にな

ってほしいと考えているのです。その願いどおり、大学卒業後、国内外の組織に就職した修了生からは、GLPで身につけた行動力やコミュニケーションスキル、視野の広さが職場で生きていくという声が多く届いています。また、GLP修了生の高い潜在能力に着目し、採用を熱望する提携企業や団体が出てきたことから、GLPを中心に教育と社会が深く結びつき、人材育成、社会貢献につながるという、理想的な好循環が生まれていることが分かります。

◆今後の展望

令和7年度、GLPは6年目を迎え、その存在感は強固なものとなりつつあります。GLPを志望理由とする学生の入学、そして国籍を超えた多様な学生たちの集結は、プログラムへの確かな評価の証しといえるでしょう。GLPのグローバル教育への高い評価は、九州産業大学のブランド力向上にも寄与しています。オープンキャンパスや留学フェアでの活発な広報により、魅力的な大学としての地位を築く原動力となることが期待されます。

豊かな「感性」と確かな「実践力」を育み、時代を切り拓いてきた九州産業大学。未来を創造し変革を起こす力を育むプログラムを新たな力として進む未来に、引き続き注目していきたいと思えます。

【取材 私学経営情報センター】